

## テーマ『感触あそび』

“手は第二の脳”と言われるほど手指からの刺激は子どもたちに大きな影響を与える。

戸外遊びが大好きな子どもたち。庭での泥んこ遊びや水遊びをしている姿はとても生き生きとしている。汚れるのが苦手だった子どもも日々の生活の中で興味を持ち、次第に触れるようになっていく。水と砂が混ざり、感触の変化を楽しむ姿を見て、様々な感触から子どもたちの感性を広げていきたいと思った。

手や足から伝わる刺激で脳の発達も促していきたい。

### 小麦粉粘土の感触をたのしもう！

#### 〈5月からの様子〉

小麦粉と食紅を準備。子どもたちにも見えるよう、大きめの洗面器の中で混ぜて小麦粉粘土を作っていく。小麦粉粘土の感触を十分に楽しめるよう、少人数ずつ順番に椅子に座り、1つずつ粘土を手渡すようにする。粘土を“つぶす、ひっぱる、ちぎる”など手先を使って、力を入れて感触を楽しんでいく。



一緒に伸ばして「びよ〜ん」↑



ちっちゃくちぎって「ころころ」↑

小麦粉と水を洗面器に入れて大人が混ぜる所を見せると「おお！」と興味を示す子どもたち。どんどん小麦が固まってくると“触ってみようかな”と自分から手を伸ばして積極的な姿。



一人ひとり目の前に小麦粉粘土を置いていくと、おそろおそろ触っている。最初は指でツツンするだけの子や躊躇なく粘土に触れて握ったりちぎったりする子など、反応がそれぞれ違って面白い。最初は触れなかった子ども回数を重ねたり、食紅で色を付けて変化を加えてみたりすると触れるようになっていった。

#### 〈振り返り〉

小麦粉粘土を初めて見た時「これはなんだろう？」と不思議に思う子や不安に思う子も、安心できる大人や友だちが感触を楽しむ姿を見て“自分もやってみよう”と興味を示し、意欲的な姿に変わっていった。

小麦粉粘土自体には興味を示さず、触れずに近くで友だちがやっているところを観察していた子が食紅で粘土に色を付けたことをきっかけに興味を示し、粘土に触れることができ感触を楽しんでいた。小さな変化も大事。

#### 〈6月からの様子〉

### 絵の具の感触を楽しもう！

絵の具や大きな模造紙ブルーシートを準備。

夏場に水遊びを楽しんでいるテラスの全面に模造紙を貼り、手足を使って絵の具の感触を楽しむ。また、色が混ざる事での変化に気がつき、色の混ざり合いにも興味を持ち、楽しめるようにする。

いつも水遊びをしているテラスの床と壁に模造紙を貼っておくと、興味津々に眺める子どもたち。絵の具を用意すると“触りたい！”と手が伸びてくる。初めから全身で感触を楽しむ子、汚れるのを気にして遠くから見ている子、友だちの姿を見て少しずつ遊びに入ってくる子と姿は様々。泣いて遊びに入れなかった子も、大人と手を繋いで一歩踏み出してみると楽しさを発見でき、絵の具の感触を体験することが出来た。

### 〈振り返り〉

部屋の中では手で塗り広げたり、たんぼなどの画材を使っているため、全身が汚れてしまう事を気にする子も多かったが、友だちや保育者の姿を見てだんだんと指でチョン、と触ってみたりしながら、少しずつダイナミックに楽しんでいける子もいて、同じあそびを繰り返し楽しんだり、様々な感触に触れてみる機会を作る事で、より子どもたちの好奇心を高めることが出来るのではないかと感じた。

日々の保育の中に感触あそびを取り入れていく事を意識しながら、経験した後もう一度同じあそびをしてみた時の子どもたちの反応の違いを見てみたい。



ぬるぬるするね  
冷たいね  
きもち～



## 水の感触や身近な自然を楽しもう！

### 〈7月からの様子〉

牛乳パックとアジサイの花を準備。

氷の感触を楽しみながら、遊びの中で身近な自然にも触れていけるようにする。



6月より散歩の道中で「ワンワン」「お花」と色々な生き物や植物の発見を楽しめるようになってきた子どもたち。いつもの散歩で発見、観察していた身近な植物を氷にして自然に触れられる経験をした。

氷に触れる子、触れられない子、色々な姿が見られる。

次第に氷が溶けてアジサイが出てくるととても不思議そうに眺める子が多かった。「アジサイだよ」と保育者が声をかけるとツツツ触って「つめたい」と感触を楽しんだり、溶けていく過程をしばらくじっと観察し続けたりすることを楽しんでいた。

## 〈振り返り〉

実際に散歩で見たことがある植物が凍っていることで、溶けて発見できた時“これ知ってる！”というような反応もあり、夏の活動前の散歩に出ている時期の記憶と繋がったような感じがとても面白かった。

今回はアジサイで試してみたが、他の植物やおもちゃを氷にしてみるのも楽しめるかもしれないと感じる。

夏が終わり、散歩に出られるようになってから子どもたちが拾った物を氷にして観察し、感触遊びにつなげて楽しみたいと思った。

今回は牛乳パックで氷を作ったので溶けるのに時間がかかり、飽き始めてしまう子もいた。もう少し小さい入れもの(製氷機など)で作ってみたり、食紅で色を付けたりしてみるのも楽しいかもしれない。



ゼラチンゼリーの感触を楽しもう！

## 〈8月からの様子〉

ゼラチン、食紅、透明カップ、水風船、浅いタライを準備。

様々な色や形のゼラチンゼリーを事前に作っておき、水遊びの時に浅いタライに出し、ゼリーの感触を楽しむ。また、透明カップでゼリーをすくい、透過する様子や光る様子に気がつき興味を持っていく。

保育者が前日に作ったゼリーを持ってくると不思議そうに見ている子や、すぐに興味を示して触ろうとする子など様々な反応を見せる。タライの中にゼリーを入れると「おお！」と初めて見るゼリーに驚きながら手でどんどん崩して感触を楽しんでいた。

「プルプル！」と感触を言葉で表現する子もいる。崩したゼリーを透明カップに入れて「きれいだね」と友だちや大人と喜びや楽しさを共有することができた。カップだけでなく別日には水風船にゼリーを入れて、水風船を割ると“プルっ”とゼリーが出てくる瞬間を大笑いして喜んでいる姿も見られた。



## 〈振り返り〉

ゼリーをカップだけでなく、水風船も活用して様々な形で作って、遊ぶことができたのが良かった。形を少し変えるだけでも子の反応がそれぞれ違ったのでとても面白かった。

ゼリーは固まるのにも時間がかかるため、前日に大人がゼリーを仕込んで持ってきた。覚えていられるか分からないが、子どもたちとゼリーが出来上がる過程(作るころなど)と一緒に見られるともっとイメージが膨らみ、水遊びだけでなく室内のままごとやごっこ遊びにも繋がっていくかもしれないと思った。